

福山市教育委員会会議（第1回）議事日程

2021年（令和3年）4月23日
午前9時 於：教育委員室

日程第1		教育委員会会議録の承認について	
日程第2		教育長の報告について 教育長報告	1
		事務局報告	
		1 2021年度（令和3年度）福山中・高等学校第1学年入学者状況について	2
日程第3	議第1号	福山市文化財の指定について	3
* 日程第4	議第2号	福山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の解嘱及び委嘱について	
* 日程第5	議第3号	福山市図書館協議会委員の解任及び任命について	
* 日程第6	議第4号	福山市奨学金審議会委員の任命について	
* 日程第7	議第5号	福山市青少年修学応援奨学金審議会委員の委嘱について	
* 日程第8	議第6号	臨時代理の承認を求めることについて（福山市教育支援委員会委員の解嘱及び委嘱）	
* 日程第9	議第7号	審査請求に係る反論書等について	
* は非公開予定			

教育長報告

3月	27日	土	
	28日	日	
	29日	月	
	30日	火	校長・園長会議 寄附受納式・感謝状贈呈式〔あいライオンズクラブ〕
	31日	水	辞令交付式 政策経営会議
4月	1日	木	辞令交付式 学校訪問（霞小，東小，久松台小，桜丘小，中央中，手城小，長浜小，緑丘小，川口東小，高島小，城北中）
	2日	金	政策経営会議 学校訪問（加茂小，駅家小，宜山小，本郷小，松永中，柳津小，金江小，千年中，千年小） 視察訪問（フリースクールかがやき〈西部〉）
	3日	土	
	4日	日	
	5日	月	学校訪問（野々浜小，深津小，幸千中，湯田小，湯田幼，中条小，神辺中，戸手小） 視察訪問（フリースクールかがやき〈東部〉，〈中央〉）
	6日	火	学校訪問（城東中，伊勢丘小） 福山100NEN教育研究員委嘱式
	7日	水	
	8日	木	
	9日	金	
	10日	土	
	11日	日	
	12日	月	
	13日	火	
	14日	水	図書館補助員研修（三吉コミュニティセンター）
	15日	木	学校訪問・校長等協議（竹尋小） 第1回広島県市町教育長会議（広島YMCA国際文化センター）
	16日	金	学校訪問（常石小）
	17日	土	
	18日	日	
	19日	月	
	20日	火	初任者研修（三吉コミュニティセンター） 学校訪問・校長等協議（駅家中）
	21日	水	初任者研修（三吉コミュニティセンター）
	22日	木	学校訪問・校長等協議（坪生小） 第4回世界バラ会議福山大会実行委員会
	23日	金	第1回教育委員会会議

1 2021年度（令和3年度）福山中・高等学校第1学年入学者の状況について

(1) 福山中学校

定員	志願者数	受検者数	合格者数	入学者数
120人	441人	436人	159人	120人

(2) 福山高等学校

定員	入学者数
200人	200人

【内訳】

ア 福山中学校からの入学者（入学者選抜によらない）

入学辞退者数	入学者数
7人	112人

イ 福山中学校以外からの入学者（入学者選抜による）

選抜の定員	志願者数	受検者数	合格者数	入学者数
88人	90人	89人	89人	88人

議第 1 号

福山市文化財の指定について

福山市文化財保護条例第 3 条の規定により、次の 2 件を福山市重要文化財に指定する。

1 明圓寺鐘楼

名 称	明圓寺鐘楼（みょうえんじしょうろう）
種 別	重要文化財（建造物）
員 数	1 棟
所 在 地	福山市鞆町後地 1 3 5 2 番地
所 有 者	明圓寺 代表役員 松江長親
構 造 形 式	桁行三間，梁間二間，袴腰付，入母屋造，本瓦葺
寸 法	桁行 113.8 寸（3.45m），梁間 80.1 寸（2.43m）
建 築 年 代	17 世紀 承応年中（1652 年～1655 年）（記録）
概 要	<p>袴腰付で，下階は正面三間に側面二間とし，柱上に台輪を渡し，その上に出三斗型二手先を置き廻縁を支える腰組とする。中備は，正背面の中央間に唐獅子の浮彫りをあしらった墓股，その両脇及び側面には蓑束を置く。蓑束の装飾は，外側のみで，内側には施されていないのは，手慣れたやり方である。一般的な袴腰付きの鐘楼は下階の柱は角柱とするが，この鐘楼では円柱としており質が高い。</p> <p>上階も正面三間に側面二間で，現状では吹き放しかつ吹き抜けとする。柱は円柱で，組物は出三斗を柱上に載せその上に置いた実肘木で桁を受ける。</p> <p>軸部は当初材で，小屋組の 7～8 割も当初材と保存状態も良く，上階の実肘木の形や絵様（渦が真円），下階の中備の墓股の肩が張っている形などから 17 世紀のものと考えられる。</p> <p>浄土真宗寺院では袴腰付き鐘楼を建てるのが制限されていたことから，現存例は全国的にも非常に乏しく，福山市内では唯一残った例である。</p> <p>広島県内では，不動院鐘楼（永享 5 年（1433 年）造立，天正 18 年（1590 年）修理）（国重要文化財）に次いで古いものであり，きわめて貴重である。</p>

2 明圓寺銅鐘

名 称	明圓寺銅鐘（みょうえんじどうしょう）
種 別	重要文化財（工芸品）
員 数	1 口
所 在 地	福山市鞆町後地 1 3 5 2 番地
所 有 者	明圓寺 代表役員 松江長親
材 質	銅製
構 造 形 式	鐘身と笠形で構成される。
寸 法	総 高：131.9cm（旗挿まで），128.0 cm（龍頭まで） 鐘身高：100.3 cm，口 径：76cm
制 作 年	寛永 21 年（1644 年）11 月 7 日
鑄 物 師	三原住竹原屋市左衛門藤原朝臣正信
概 要	<p>当該銅鐘は、龍頭が2頭で、鐘身に袈裟襷文様を施すなどの和鐘の特徴と、龍頭横に旗挿が付き、鐘身に蓮蕾形の乳、仏像や唐草文の装飾を施すなど朝鮮鐘の要素を合わせもつ和朝折衷様の鐘である。</p> <p>旗挿付きの銅鐘は、市内では、福山市重要文化財に指定されている沼隈町光照寺の銅鐘（慶長18年（1613年）9月17日）と当該銅鐘の2例のみである。</p> <p>仏像は、光条を放射状に放つ円光背を負い、蓮華座の上に左斜め前方に向いて立つ阿弥陀如来立像で、衣文と蓮華座蓮弁は線刻、光背光条と円輪は鑄出されている。</p> <p>また、龍頭の長軸線と2つの撞座を結ぶ線とは同一方向であること、龍頭の付け根に近い位置に龍頭と平行する2個の長方形の湯口があること、撞座の位置が下方に配されていること、駒の爪が少し横に張り出すこと、鐸身の鑄型が3分割されていることなどの特徴がある。さらに、撞座の蓮華文は通常8葉であるが当該鐘は9葉と珍しい。</p> <p>池の間に陰刻された銘文により、制作年、鑄物師名が明らかであり、朝鮮鐘の形式を取り入れて作られた和朝折衷様の鐘として貴重な銅鐘である。</p>

（参考）

○福山市文化財保護条例（抄）

（指定）

第3条 福山市教育委員会（以下「委員会」という。）は、法及び広島県文化財保護条例（昭和51年広島県条例第3号）に基づき、指定されたものを除き、市内にある文化財のうち、重要なものをそれぞれ市重要文化財又は市史跡名勝天然記念物（以下「市指定文化財」という。）に指定することができる。

2 前項の規定による指定をしようとするときは、委員会は、あらかじめその所有者又は保持者の同意を得なければならない。

2021年（令和3年）3月30日

福山市教育委員会 様

福山市文化財保護審議会
会長 佐藤 昭嗣



福山市文化財の指定について（答申）

2019年（令和元年）8月23日 付け福文第1211号の2で、福山市教育委員会から諮問のあった標記のことについて、福山市文化財保護審議会に関係資料を調査・検討し、審議した結果、次の2件について福山市指定文化財として適当と認める旨の結論を得ました。ついで、文化財保護のため、適切に保存するよう答申いたします。

1 明圓寺鐘楼

名 称	明圓寺鐘楼（みょうえんじしょうろう）
種 別	重要文化財（建造物）
員 数	1 棟
所 在 地	福山市鞆町後地 1352 番地
所 有 者	明圓寺 代表役員 松江長親
構造形式	桁行三間、梁間二間、袴腰付、入母屋造、本瓦葺
寸 法	桁行 113.8 寸（3.45m）、梁間 80.1 寸（2.43m）
建築年代	17 世紀 承応年中（1652 年～1655 年）（記録）
特 徴	<p>袴腰付で、下階は正面三間に側面二間とし、柱上に台輪を渡し、その上に出三斗型二手先を置き廻縁を支える腰組とする。中備は、正背面の中央間に唐獅子の浮彫りをあしらった臺股、その両脇及び側面には蓑束を置く。蓑束の装飾は、外側のみで、内側には施されていないのは、手慣れたやり方である。一般的な袴腰付きの鐘楼は下階の柱は角柱とするが、この鐘楼では円柱としており質が高い。</p> <p>上階も正面三間に側面二間で、現状では吹き放しかつ吹き抜けとする。柱は円柱で、組物は出三斗を柱上に載せその上に置いた実肘木で桁を受ける。</p> <p>軸部は当初材で、小屋組の7～8割も当初材と保存状態も良く、上階の実肘木の形や絵様（渦が真円）、下階の中備の臺股の肩が張っている形などから17世紀のものと考えられる。</p> <p>浄土真宗寺院では袴腰付き鐘楼を建てるのが制限されていたことから、現存例は全国的にも非常に乏しく、福山市内では唯一残った例である。</p> <p>広島県内では、不動院鐘楼（永享5年（1433年）造立、天正18年（1590年）修理）（国重要文化財）に次いで古いものであり、きわめて貴重である。</p>



2 明圓寺銅鐘

名 称	明圓寺銅鐘 (みょうえんじどうしょう)
種 別	重要文化財 (工芸品)
員 数	1 口
所 在 地	福山市鞆町後地 1352 番地
所 有 者	明圓寺 代表役員 松江長親
材 質	銅製
構造形式	鐘身と笠形で構成される。
寸 法	総高：131.9cm (旗挿まで), 128.0 cm (龍頭まで) 鐘身高：100.3 cm, 口径：76cm
制作年	寛永 21 年 (1644 年) 11 月 7 日
鑄物師	三原住竹原屋市左衛門藤原朝臣正信
特 徴	<p>当該銅鐘は、龍頭が2頭で、鐘身に袈裟襷文様を施すなどの和鐘の特徴と、龍頭横に旗挿が付き、鐘身に蓮蕾形の乳、仏像や唐草文の装飾を施すなど朝鮮鐘の要素を合わせもつ和朝折衷様の鐘である。</p> <p>旗挿付きの銅鐘は、市内では、福山市重要文化財に指定されている沼隈町光照寺の銅鐘 (慶長 18 年 (1613 年) 9 月 17 日) と当該銅鐘の 2 例のみである。</p> <p>仏像は、光条を放射状に放つ円光背を負い、蓮華座の上に左斜め前方に向いて立つ阿弥陀如来立像で、衣文と蓮華座蓮弁は線刻、光背光条と円輪は鑄出されている。</p> <p>また、龍頭の長軸線と 2 つの撞座を結ぶ線とは同一方向であること、龍頭の付け根に近い位置に龍頭と平行する 2 個の長方形の湯口があること、撞座の位置が下方に配されていること、駒の爪が少し横に張り出すこと、鐸身の鑄型が 3 分割されていることなどの特徴がある。さらに、撞座の蓮華文は通常 8 葉であるが当該鐘は 9 葉と珍しい。</p> <p>池の間に陰刻された銘文により、制作年、鑄物師名が明らかであり、朝鮮鐘の形式を取り入れて作られた和朝折衷様の鐘として貴重な銅鐘である。</p>

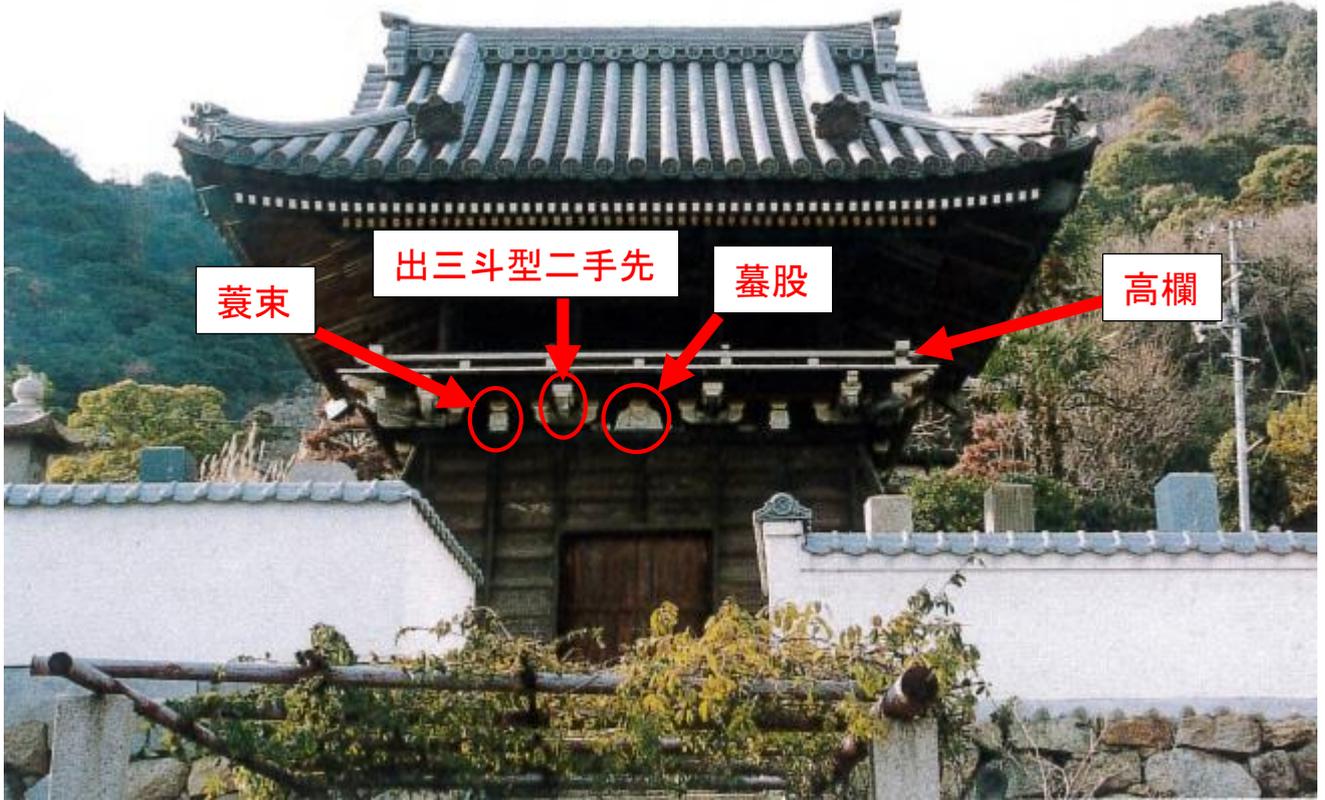
福山市指定文化財候補調書

【明圓寺鐘楼】

種別（種類）	重要文化財（建造物）
名称	明圓寺鐘楼（みょうえんじしょうろう）
員数	1 棟
所在の場所	福山市鞆町後地 1352 番地
所有者名	明圓寺 代表役員 松江長親
所有者住所	福山市鞆町後地 1352 番地
構造形式	桁行三間、梁間二間、袴腰付、入母屋造、本瓦葺 (別紙平面図・写真参照)
寸法	桁行 113.8 寸 (3.45m), 梁間 80.1 寸 (2.43m)
建築年代	承応年中 (1652 年～1655 年) (記録)
特徴	<p>明圓寺は、宝泉を開基として沼隈郡山田村に創建された浄土真宗の寺院で、天文年間（1532 年～1554 年）に現在地に移転したと伝えられる。</p> <p>この鐘楼は袴腰付で、下階は正面三間に側面二間とし、柱上に台輪を渡し、その上に出三斗型二手先を置き廻縁を支える腰組とする。中備は、正背面の中央間に唐獅子の浮彫りをあしらった臺股、その両脇及び側面には蓑束を置く。蓑束の装飾は、外側のみで、内側には施されていないのは、手慣れたやり方である。一般的な袴腰付きの鐘楼は下階の柱は角柱とするが、この鐘楼では円柱としており質が高い。</p> <p>上階も正面三間に側面二間で、現状では吹き放しかつ吹き抜けとする。柱は円柱で、組物は出三斗を柱上に載せ、その上に置いた実肘木で桁を受ける。</p> <p>上階の実肘木の形や絵様（渦が真円）、下階の中備の臺股の肩が張っている形などから 17 世紀のものと考えられる。『あくた川のまき』（天和三年（1683）頃）及び『鞆浦志』（延享～寛延年間（1744～1750）頃）に承応年中（1652 年～1655 年）に住侶長賢が建てたと記されているのを認めて良いと思われる。</p> <p>軸部は当初材で、小屋組の 7～8 割も当初材であるが、上階の肘木は、下端が直線的で 19 世紀以降の取替材が混在している。高欄と廻縁や袴腰も後世の取替材で、腰組にも取替材が見られる。また、近年に屋根の葺き替えが行われている。</p> <p>浄土真宗寺院では袴腰付き鐘楼を建てるのが制限されていたことから、現存例は全国的にも非常に乏しい。中世までは一般的だった袴腰付の鐘楼が、簡略化されていく中で、福山市では唯一残った例である。</p>

	<p>広島県内では、不動院鐘楼（永享 5 年（1433 年）造立，天正 18 年（1590 年）修理）（国重要文化財）に次いで古いものであり，きわめて貴重である。</p>
<p>その他参考となる事項</p>	<p>福山藩輛奉行の荻野新右衛門が寄進した寛永 21 年（1644 年）の銅鐘が伝来している。</p> <p>室町末期（戦国時代）の石山合戦（1570 年～1580 年）では，明圓寺住職が毛利軍と共に織田信長と戦っており，慶長 16 年（1611 年）の顕如上人画像が伝来している。</p> <p>当寺は，江戸時代を通して，朝鮮通信使の常宿でもあった。</p>

鐘樓（明圓寺）



鐘樓正面



鐘樓（南東側）



鐘樓（北西側）

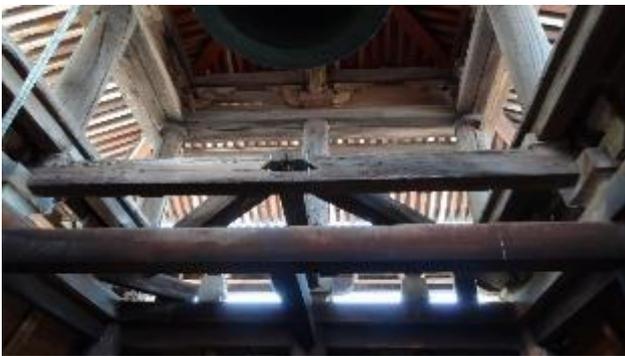


鐘楼（屋根：南側）

出三斗型二手先



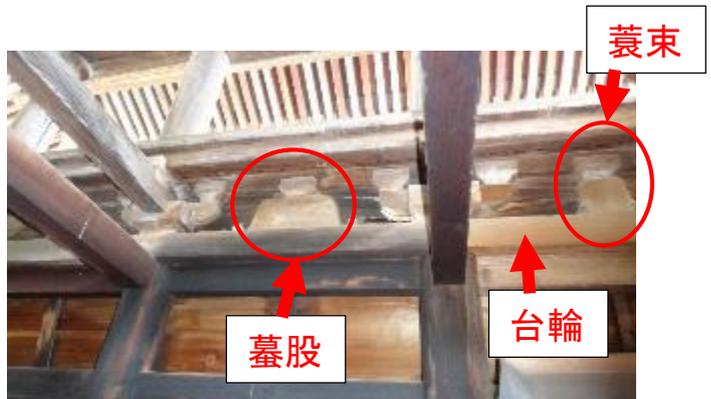
鐘楼（屋根垂木：南側）



鐘楼（木組状況：内部西側）



鐘楼（木組状況：内部北東側）





上階内部



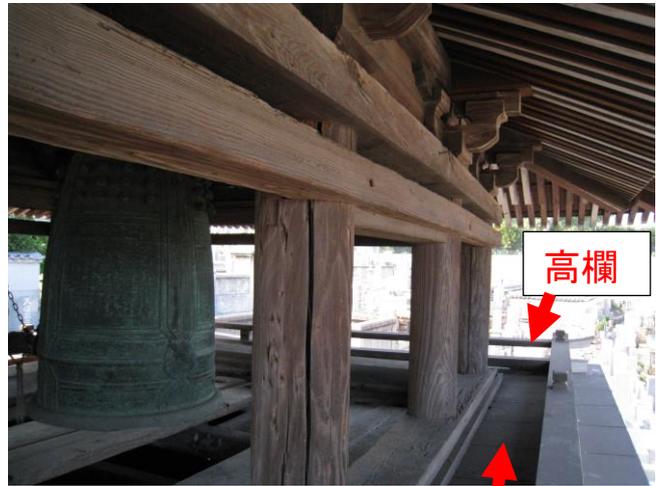
肘木

上階内部



実肘木

上階外部

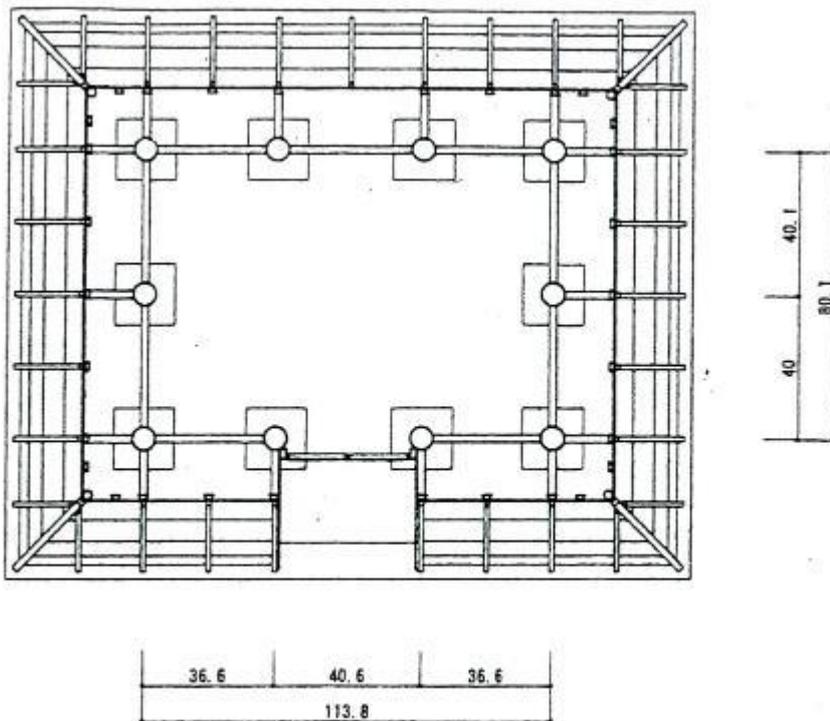


高欄

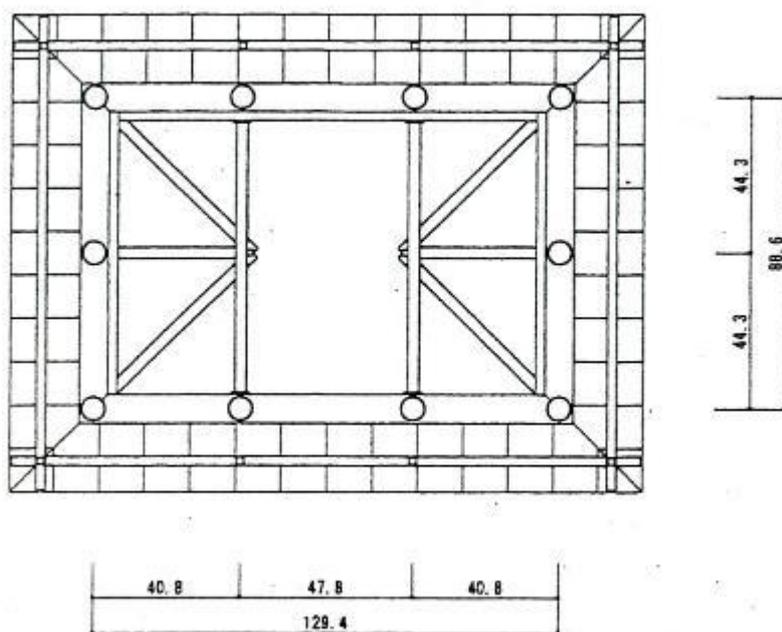
廻縁

上階外部

鐘樓平面図 (単位：寸)



下層



上層

福山市指定文化財候補調書

【明圓寺銅鐘】

種別（種類）	重要文化財（工芸品）
名称	銅鐘
員数	1 口
所在の場所	福山市鞆町後地 1352 番地
所有者	明圓寺 代表役員 松江長親
構造形式 （品質、形状）	<p>銅製で鐘身と笠形から構成される。</p> <p>笠形には上面中央に龍頭を据え、横に旗挿が付く。</p> <p>龍頭は、人面の双龍が背中合わせで左右対称となり、頭上には蓮台に載せた火焰宝珠を置く。</p> <p>旗挿は、径 5 cm、高さ 28 cm の円筒形で、先端は 3 か所に V 字形の切り込みがあり、笠形との接合部は円筒の空洞が貫通する。円筒外面には雲文の下に 2 羽の鶴と 1 匹の亀が鑄出されている。</p> <p>また、笠形の龍頭の付け根に近い位置に、龍頭と平行する 2 個の長方形の湯口が確認できる。</p> <p>鐘身は、帯状に区画された袈裟襷文様を施す。水平方向には 3 本の突線からなる 4 cm 幅の横帯が 4 か所巡り、乳の間、池の間、中帯・草の間に区切られ、上帯と下帯は省略されている。垂直方向は 5 本の突線からなる縦帯で 4 分割されている。</p> <p>乳の間は 4 面あり、1 面に蓮蕾形の乳が 3 段 4 列の 12 個配置されている。</p> <p>池の間も 4 面あり、3 面に銘文が陰刻され、そのうち 2 面に光背付きで蓮華座に乗る小さな仏立像が鑄出されている。</p> <p>仏立像は、光条を放射状に放つ円光背を負い、左腕は垂下、右腕は肘を軽く曲げて腹の高さに挙げ、両手共に掌を前に向けて第一指と第二指を捻じる所謂、来迎印を結び、衲衣と裙を着し、蓮華座（踏み割り蓮華座か）の上に、左斜め前方に向いて立つ阿弥陀如来立像である。衣文と蓮華座蓮弁は線刻、光背光条と円輪は鑄出されている。</p> <p>龍頭と同一方向の縦帯と中帯が交わる位置 2 か所に、1 + 8 個の珠文を配した中房とその周囲に単弁 9 葉の蓮弁を施した径 13 cm の蓮華文撞座が付く。</p> <p>草の間の 4 か所には唐草文が陽鑄され、駒の爪は少し横に張り出す。</p> <p>なお、鐘身には、池の間の上端から 5.6 cm 下と、中帯上部の突線 3 本のうち中央の突線上に鑄張りが見られ、鐘身の鑄型は 3 分割されていたことがわかる。</p>
寸法	<p>総高：131.9cm（旗挿まで）、128.0 cm（龍頭まで）</p> <p>鐘身高：100.3 cm、口径：76cm</p>
制作年	寛永 21 年（1644 年）11 月 7 日

鋳物師	三原住竹原屋市左衛門藤原朝臣正信
特徴	<p>朝鮮鐘は、龍頭が単頭でその横に旗挿と呼ばれる筒状の突起が付くことや、鐘身に蓮蕾形の乳が配され、袈裟襷の文様はなく菩薩、飛天、唐草文などの装飾を施す特徴がある。当該銅鐘は、龍頭が2頭で、鐘身に袈裟襷文様を施すなどの和鐘の特徴と、龍頭横に旗挿が付き、鐘身に蓮蕾形の乳、仏像や唐草文の装飾を施すなど朝鮮鐘の要素を合わせもつ和朝折衷様の鐘である。</p> <p>旗挿付きの銅鐘は、市内では、福山市重要文化財に指定されている沼隈町光照寺の銅鐘（1613年（慶長18年）9月17日）と当該銅鐘の2例のみである。</p> <p>また、龍頭の長軸線と2つの撞座を結ぶ線とは同一方向であること、龍頭の付け根に近い位置に、龍頭と平行する2個の長方形の湯口があること、撞座の位置が下方に配されていること、駒の爪が少し横に張り出すこと、鐸身の鋳型が3分割されていることなどの特徴がある。さらに、撞座の蓮華文は通常8葉であるが、当該鐘は9葉と珍しい。</p> <p>池の間に陰刻された銘文により、制作年、鋳物師名が明らかであり、朝鮮鐘の形式を取り入れて作られた和朝折衷様の鐘として貴重な銅鐘である。</p> <p>また、銘文には、軀奉行であった萩野新右衛門などが寄進したと記されており、福山藩との結びつきが強かったことが伺われる。</p>
その他 参考となる事項	<p>軀では、江戸時代末と昭和の金属供出をまぬがれた2つの銅鐘（阿弥陀寺と明圓寺）のうちの一つである。</p>

近隣の旗挿付き梵鐘

寺院名	制作年	鋳物師	備考
妙正寺 (三原市)	天正4年 (1576)	竹原屋吉井左衛門尉信正	
光照寺 (福山市沼隈町)	慶長18年 (1613)	藤原朝臣竹原屋吉井彦右衛門尉信正 同彦五郎 信吉	
浄土寺 (尾道市)	寛永8年 (1631)	吉井正信	
明圓寺 (福山市鞆町)	寛永21年 (1644)	三原住竹原屋市左衛門藤原朝臣正信	
沼名前神社 (福山市鞆町)	慶安3年 (1651)	竹原屋吉井彦右衛門藤原信正 治左衛門藤原信次	太平洋戦争 中に供出

銅鐘（明圓寺所蔵）



銅鐘側面の写真



笠形上部の龍頭と旗挿



銅鐘内部（貫通した旗挿の穴が見える）



仏像が鑄出された部分



池の間に陰刻された銘文と鑄出された仏像の拓本（1面）

一面

仰以

洪鐘資生順道之具即見增長善法器也矣

過去毘婆尸佛時惡邪聲王感身長五百由旬

九頭龍身佛化善巧造立撞鐘來釵殺害苦忽

免刺大龍轉惡質速生都卒天闕賦□王劍（釵）輪

脱空隋揚帝兄病亡智興打鍾受苦者皆解脱

江南先主五木縲械暫休廣利稱佛依鐘聲緣天

上阿輸沙國婆羅門獄鐘響謂金鼓不覺鳴

念佛再活焉昔梵王鎔鑄祇桓（洄か）金鐘時外魔來

成妙術能仁彼曰我扣鐘不打自鳴上驚非想

下動輪際聲周遍三千大界其時魔王翻邪

歸正成佛弟子寔

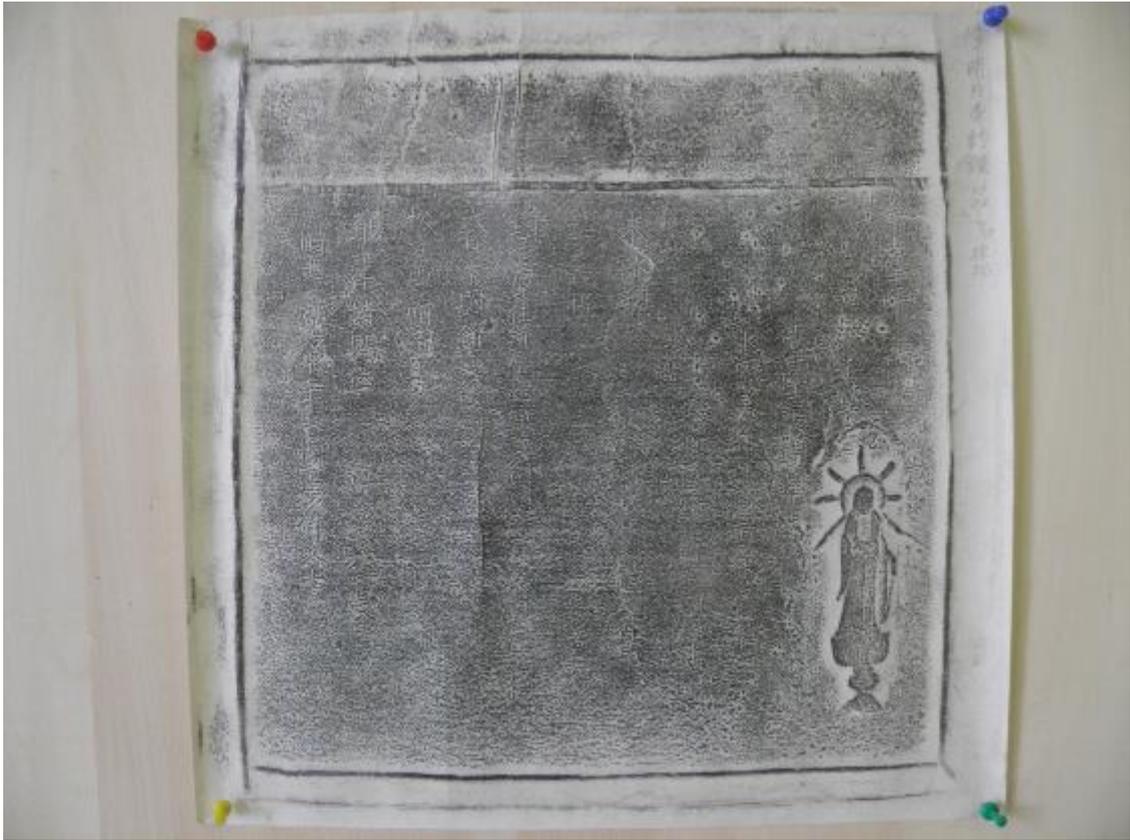
是法折伏也彼釐城僧



池の間に陰刻された銘文の拓本（2面）

二面

屈外道久不擊犍稚提婆菩薩重聲推被異道
或復精舍無常堂病僧聞梵音四句響苦惱即滅
得以清涼樂生淨土矣加旃欲鑄梵鐘晨夕之成巨
益狗留孫造石鐘以備化導迦葉結集時搗銅
犍槌焉夫鐘者說法誦經之時至齋粥之去來掃
地疾急之節必鳴之警大衆大小乘法器且加之哉
擱裂魍魅魍魎矧又三寶諸天垂感應護持
之宛臂吒當々徹天曹地府普（晋か）使人天幽危四
趣含靈透出蓋聲塵說法者水流沉々風吹颯々
松吹說法僉是度生此聲作佛事耳根得入
理趣常也故觀音聞聲悟道也矣問（問か）曰鐘
響端的宗家會得如何答曰猪摺金山
風增求羅焉
所庶幾者建音常然無衰無變湛（堪か）然盈溢而已



池の間に陰刻された銘文と鑄出された仏像の拓本（3面）

三面

今上皇帝聖躬萬歲

台齡千秋万算

當國主源朝臣

水野美作守勝重之御代建立之

奉行 荻野新右衛門尉

奉報謝 惣門徒中

為菩提 滋男者无縁

鑄工三原住竹原屋市左衛門藤原朝臣正信

大日本國備之後州沼隈郡鞆之浦

松江山明圓寺

願主住持賜位釋氏良傳長賢慎書

時也寛永二十一年甲申歲仲冬七日



旗挿（甬）外面に鑄出された「雲に鶴亀文」の拓本

『備陽六郡志』

淨土真宗

●(原本朱圈)松江山 ●(原本朱圈)法泉院 東本願寺末寺 明圓寺 開山 寶泉 姓ハ信谷 本堂 七間四面
往古山田村に有。天文年中、聊の事有て此地に移し建康たり。當寺第三世長賢、鐘を鑄。

●(原本朱圈)鐘銘

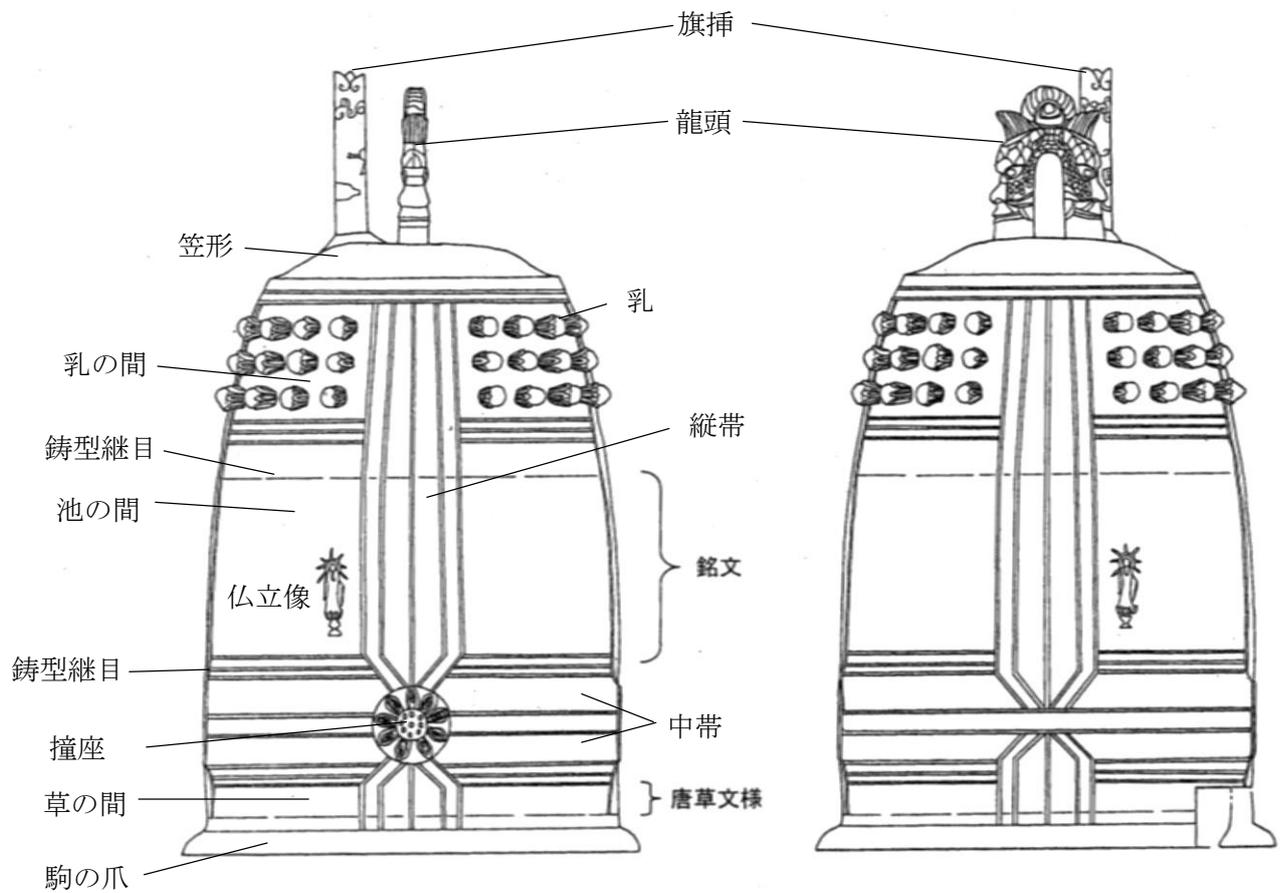
仰以、洪鐘、資生順道之具、即見、增長善法、器也矣、過去毘婆尸佛、時、惡邪聲王感身長五百由旬九頭龍身、佛化善巧、造立撞鐘、來、釵殺害苦忽免、剩大龍轉、惡質、速生都卒天、爾賦吒王釵輪脫空、隨(隋)揚(煬)帝兄病亡智興打鐘受苦者皆解脫、江南先主五木線、械暫休、廣利稱佛依、鐘聲、緣天上阿輪沙國婆羅門、獄鐘響謂金鼓不覺鳴、念佛再活焉、昔梵王鑄鑄祇桓(か)金鐘、時、外魔來、成妙術能仁、彼曰我扣鐘不打自鳴、上驚悲想、下動輪際、聲周遍三千大界、其時魔王、翻邪歸正成佛弟子、寔是法、折伏也、彼聲城僧屈外道久不擊、健稚提婆菩薩重聲推被異道、或復精舍無常堂病僧、聞梵音四句響、苦惱即滅、得以清涼樂、生淨土矣、加旃欲鑄梵鐘、晨夕之成巨益、狗留孫造石鐘、以備化導、迦葉結集時、過銅槌槌焉、夫鐘者說法誦經之時、至齋粥之去來掃地疾急之節、必鳴之、警大衆、大小乘法器也、且加之哉、擱裂魑魅魍魎、矧又三寶諸天垂感應護持之宛臂、吒當々敬敬天曹地府普使人天幽危四趣含靈透出蓋聲塵法者水流沉々、風吹飄々、松吹說法、念是度生、此聲作佛事、耳根得入理趣常也、故觀音聞聲悟道也矣、問曰鐘響端的宗家會得如何、答曰猶摺金山風增求羅焉、所庶幾者、建音常然、無衰無變湛然盈溢而已。今上皇帝聖躬萬歲 台齡千秋万算

當國主源朝臣水野美作守勝重之御代建立之 奉行 荻野新右衛門

鑄工 三原住 竹原屋市左衛門藤原正信

大日本國備之後州沼隈郡鞆浦 松江山明圓寺 願主住持賜位釋氏良傳長賢慎書

寛永二十一申歲仲冬七日



福山市鞆町 明圓寺 梵鐘
 総高 128cm
 口径 76cm
 寛永二十一年(1644年)銘



明圓寺銅鐘実測図